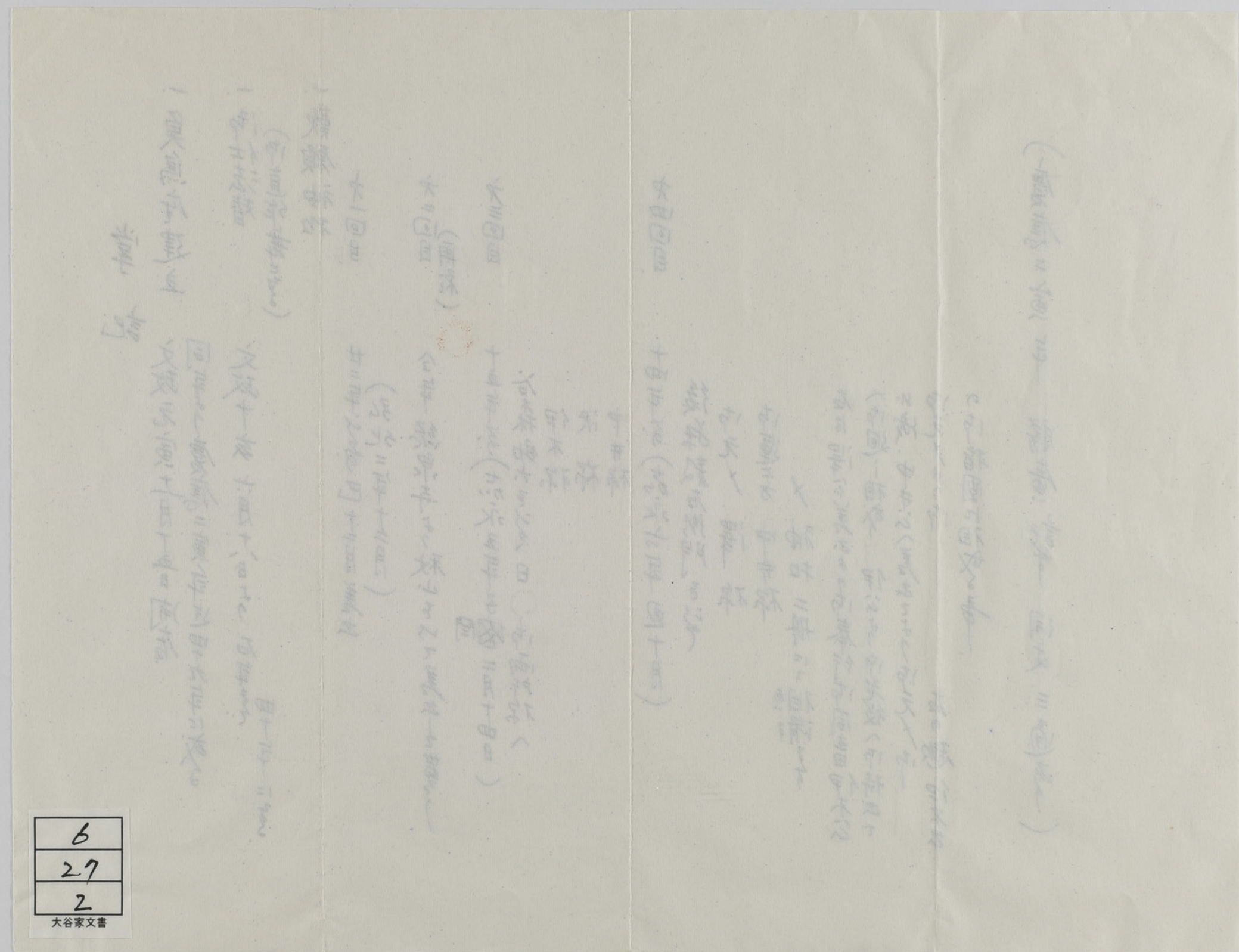
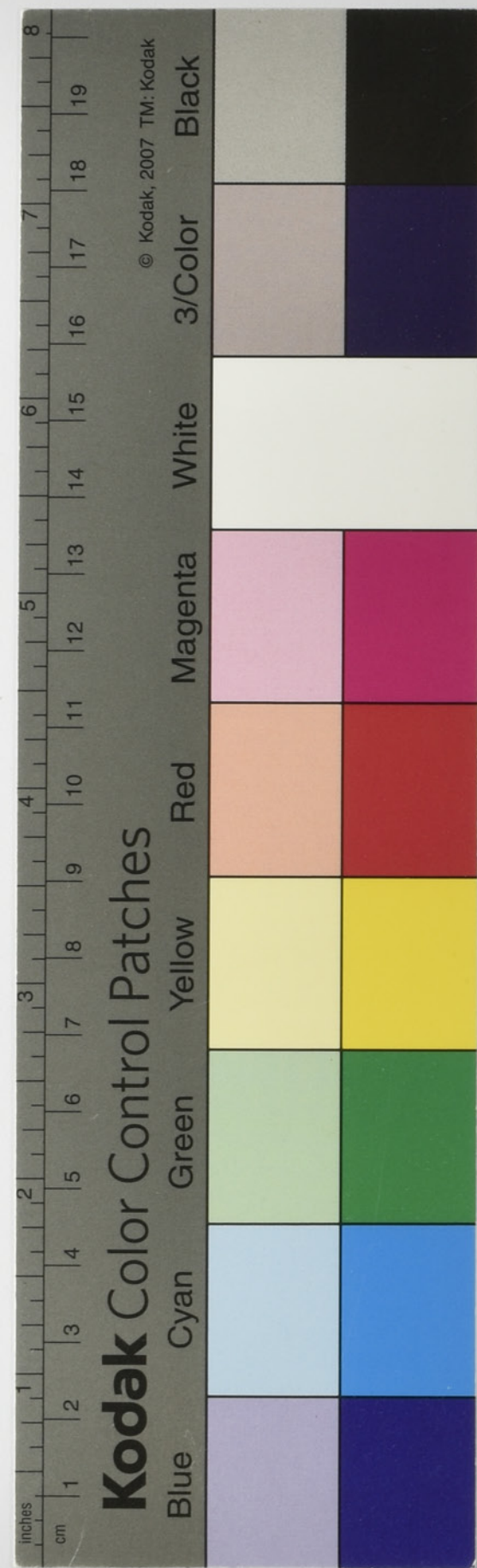
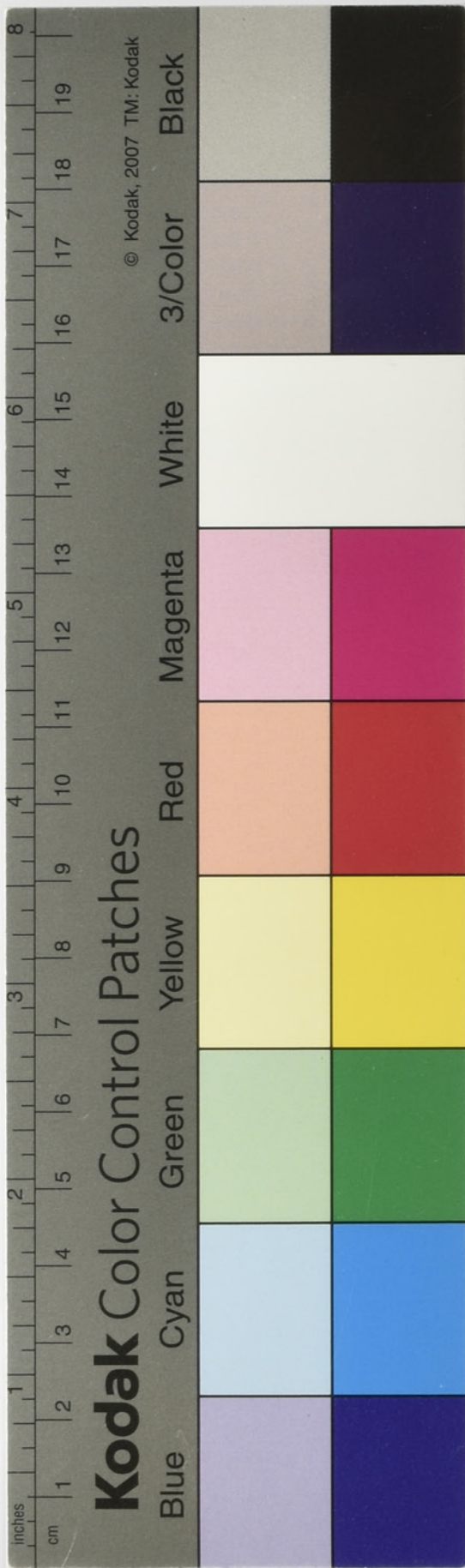




【大谷家文書】6-27-2





掌記

一 魚鳥屋建立
文政元寅上月十五日開店
同年より慶應三寅年迄四十九年に成る

一 市仕法替
文政十亥六月十八日より石毎まで
四十一年に成る
(市直作舞と云)

一 歎願袖扣
廿二年己巳十二月差出
(弘化二年十二月)

廿三年
今年 総泉寺より秋山を以て君とせむ

廿四目
(再記)
十五年子(七か永五年子)二月十四日
谷林助六と云日(市西所稱へ
伊不称
沢不称
中井不称

廿四目
十四年子(七か永六年丑十月)
後妹教右衛門と云
市元メ 澤不称
市運正方 中井不称
メ 袖扣二冊に相満ます
右は澤公差より市奉行市同主田伊不公
(市廻り相成り 伊公より市老役へ市持出で
い成 中井公へ差出より市元メ市
市元メより市
右の趣 伊不公
の市指圖に相成る事

(慶應三寅年 勝廣記す 同文三通あり)

